

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	しゃべりば		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別支援計画書に基づき一人一人の課題や目標を職員間で日々共有することができており、その都度課題に向け協議の機会が多いことが強みです。	毎朝朝礼、週に1度のミーティングを実施。前日の振り返りや児童の課題について協議を日々行っております。	必要に応じて、その都度保護者との情報共有や相談員との面談の回数も増やしていく。定期的に個別支援計画書の読み返しなどもミーティングの内容に組み込んでいく。
2	個々へのアプローチまたは小集団でのSST(主に対人関係スキル)や余暇時間での声掛けも意識しながら支援を実施しています。また整理整頓などの日常生活スキルの向上にも努めています。	SSTの内容についての月間目標を決め、それに沿ったワークシート作成(下級生用、上級生用)、レクリエーション、ロールプレイ等を取り入れたSST等を実施。最初に分かりやすいよう職員にてモデリングを実施。また、スクリーンを使用し、聴覚からだけでなく視覚的にもアプローチしている。児童も「楽しく」「分かりやすく」なり活動に前向きな姿勢が見られています。下級生グループ、上級生グループに分かれ職員も一緒に入り声掛けはもちろん、他児同士での意見交換等を行いコミュニケーションも回っています。	療育に関する研修等への参加機会を増やしていく。職員各々のスキルアップを目指していく。児童からの課題や困りごとについての確認をする機会も増やしていく。
3	余暇時間を充実させるための取り組み。	余暇時には一人遊びだけでなく2人以上、3人以上で交流する機会を増やすようにしている。必要に応じて職員も混ざり一緒に交流を図っている。児童が複数で交流ができるように遊具などの定期的な購入や希望を調査し、購入を行っている。	必要な物品や事業所で取り組みたいことなど、児童や保護者の要望も可能な範囲で受け入れられるようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の方々と接する機会が少ないです。	慣れない場所や人に会うことに抵抗のある利用者様も多い。利用状況にも影響する可能性もある為、現在交流の機会を増やすことができていない。	地域の公園や店舗の利用により、地域の方々や児童と接触する回数を増やすことはできる。その為の活動検討を今後チームで行っていく必要がある。
2	児童分野に精通した職員がまだ少ないこと。	療育活動に対し、知識や経験が浅い為、計画書をもとに支援を行っていくが、障がい特性の理解や支援方法について知識を深めていく必要があります。	社外研修はもちろん、経験のあるスタッフからの内部研修や日頃のミーティングなどで、知識を深めていけるよう取り組んでいく。また教材に関しても、事業所として準備し個人の勉強の機会を作るようにしています。
3			